

2026年6月12日

関係者の皆さま

神戸市サッカー協会

(報告) 理事 金澤 正太郎

活動結果報告

2026.6.6(土)9:30~16:30@港島南球技場で快晴の中、普及プロジェクトとして開催された『第10回神戸ファミリーサッカーゆるやか交流会』には、計30名(大人14名、子供16名)が参加してくれました。さらに、同時開催した

『第5回インターナショナルサッカー交流大会 KOBE 2026』には、計12チーム(エンジョイ4チャレンジ8) 21か国 135名(うち外国人83名、女性9名)が参加してくれました。



地域の掘り板

神戸ファミリーサッカーゆるやか交流会 6日9時半〜11時、神戸市中央区港島南町3、市立港島南球技場。未経験者でも楽しめるシユート練習、ミニゲームなど。参加無料(別途駐車料)。予約不要。雨天決行。市サッカー協会の金澤さん ☎090・888854904

第10回 神戸ファミリーサッカーゆるやか交流会

2026年6月6日(土) 9:30~11:00 (雨天決行)

場所: 神戸市立港島南球技場
〒650-0047 神戸市中央区港島南町3-7
駐車場: 無料(普通車1500円/1h・マイカーは4500円/1h) (シャワー・更衣室あり)

目的: 選手の「家族・友達・知人」に日頃の感謝を込めて、おもしろい楽しみてもらおう!

参加費無料!

当日のスケジュール (予定)

- 9:30~9:40 参加者集合・受付
- 9:40~ シュート練習、ミニゲーム など
- 11:00 集合写真撮影・解散

※当日は「国際サッカー交流大会」も開催します

※駐車場は、数に限りがございます。ご来場の際はなるべく乗り合わせや公共交通機関のご利用をお願いいたします。
※付添の場には絶対駐車しないでください

主催 一般社団法人 神戸市サッカー協会
お問い合わせ 金澤 正太郎
〒650-0047 神戸市中央区港島南町3-7
090-888854904
www.kobe-familysoccer.jp

第5回 インターナショナルサッカー交流大会 KOBE 2026

6.6 SAT

エンジョイ 9:30~12:00
チャレンジ 12:00~17:00

神戸市立港島南球技場

神戸市サッカー協会主催、国際サッカー連盟(FIFA)公認の国際サッカー交流大会。神戸市サッカー協会のサッカーを通じて、国際サッカーの発展と、神戸市サッカー協会の発展を促進することを目的としています。

参加資格 神戸市に在住の外国人及び日本国籍の海外在住の選手で、神戸市サッカー協会の承認を得た選手

参加方法 神戸市サッカー協会(〒650-0047)に下記までご連絡ください。なお、申込みの際は先着順とさせていただきます。

お問い合わせ 金澤 正太郎
神戸市立港島南球技場
〒650-0047 神戸市中央区港島南町3-7
090-888854904
www.kobe-international-football.jp

世界21カ国の出身者がサッカーを楽しむ交流大会が、中央区・ポートアイランドの市立港島南球技場であった。北区出身のサッカーJリーグ1部(J1)FC

町田ゼルビア主将の昌子源さん(33)が支援する催しで、135人の参加者が12チームに分かれて熱戦を繰り広げた。(池田大介)

出身国の分け隔てなくサッカーで交流する参加者。市立港島南球技場

多様な国の人たちが交流を深めるきっかけをつくらうと、市サッカー協会が2022年から毎年開催。元日本代表でもある昌子さんが支援するようになった経緯について、姉の楓さん(35)は「昌子さんがフランスでプレーしていた時、言葉の壁で苦労していたから」と説明する。

6日であった大会は、昌子さんの父、力さん(62)がゼネラルマネジャー(GM)を務める小中学生クラブ「ロウエスト神戸」(西区)の運営会社も協賛。ファミリーと経験者向けに分かれ、8人制のリーグ戦で開催した。

経験者向けの決勝は、多国籍の選手が所属するインターコウベとECCC日本語

135人参加、プレーにお国柄も



学院神戸校が対戦。両チームともに得点が決まらず拮据した展開が続いたが、終盤にインターコウベが均衡を破り、そのまま逃げ切った。

北区出身、J1町田・昌子さん支援

21カ国出身者 サッカー交流

インターコウベに所属するペルー出身のアルフォンソ・サラテタカノさん(50)は「国ごとにプレイスタイルが違うため、どうすればチームとして活躍できるか考えるのが楽しかった」とほほ笑んだ。

抗した展開が続いたが、終盤にインターコウベが均衡を破り、そのまま逃げ切った。

兵庫勢 7大会連続で世界へ

02年日韓から明神、加地、岡崎、香川、昌子ら

サッカー・ワールドカップ（W杯）北中米3大陸大会が12日日本時間、開幕する。15日（同）に初戦を迎える日本代表のエースナンバー10を背負う、MF、FW堂安律（尼崎市出身）の活躍にも大きな期待がかかる。兵庫県出身者の選出は2002年の日韓以降、7大会連続だ。兵庫にゆかりのある代表選手

の活躍から、これまでのW杯を振り返りたい。（13面に関連記事）

日本、15日初戦

「魂みたいなのは向こうに置いてきた」
日本代表とW杯の歴史は、のちにウィッセル神戸でプレーするFW三浦知良の名言で幕を開けた。初出場の1998年フランス大会、当時の岡田武史監督は、メンバーから日本サッカー界の功労者を外す非情の決断を下す。初の大舞台で日本はグループリーグで3戦全敗を喫し、世界の厳しさを味わうことになる。全国が沸いた2002年日韓大会、兵庫出身で初めてW杯のピッチを踏んだのが、MF明神智和（神戸市西区出身）だ。小柄ながら急激な成長力と豊富な運動量で3試合に出場し、初の決勝トーナメン

歴代W杯 兵庫出身の主な日本代表選手



加地亮

香川真司

堂安律

昌子源

岡崎慎司

堂安の左足、初の8強に導けるか

ト進出に貢献した。
06年ドイツ大会では、DF加地亮（南あわじ市出身）がメンバー入り。欧州で活躍する中田英寿や中村俊輔らを擁した日本代表は、過去最強と持ち上げられたが、結果はグループリーグ敗退に終わった。
ちなみに2戦目のクロアチア戦では、勝ち越しの決定機を逃した柳沢敦が試合後のインタビューで「急にボールがきたので」という言葉を残した。今でもサッカーファンの中で語り草となっている「名シーン」は、加地の絶好のクロスから生まれている。
続く10年南アフリカ大会では、FW岡崎慎司（宝塚市出身）が代表入りを果たし、FW大久保嘉人がJリーグ所属選手として初めてメンバーに選ばれた。グループリーグのデンマーク戦に途中出場した岡崎は初得点となるチーム3点目を奪い、決勝トーナメント進出を確実にする。しかしチームは1回戦で敗れ、またもやベスト8の壁に阻まれた。
14年ブラジル大会は、本田圭佑や岡崎、FW香川真司（



神戸市垂水区出身）を擁し、「最強世代」の呼び声も高かった。ところが日本代表は暑い南米の地で本領を発揮できず、グループリーグ敗退。3戦目のコロンビア戦では岡崎がタイピングヘッドで一矢を報いた。
18年ロシア大会もベスト8に二歩及ばなかった。14年に続いて岡崎、香川が入り、DF藤子源（神戸市北区出身）が初進出された。
決勝トーナメント1回戦のベルギー戦、日本は2点を先取しながらも追いつかれ、後半終了直前に強烈なカウンターから決勝点を奪われる。猛攻を食い止められなかった藤子は芝生に突っ伏し、拳をたたきつけて悔しがった。
最もベスト8に肉薄したのが、前回の22年カタール大会だろう。優勝経験国のドイツやスペインと同じ「死の組」ながら、日本はグループリーグを首位で勝ち抜く。初進出の堂安は2得点を奪う活躍を見せ、「俺のコース」の名言も残した。決勝トーナメント1回戦では3位に入ったクロアチアと死闘を演じるも、惜しくもPK戦で涙をのんだ。
そして今大会、兵庫出身者のパトンは7大会連続でつながれた。27歳の左足は、日本を「最高の景色」へと導くことができるのか。（井沢泰斗）